



▲第37回相良慶隆杯 竹田新春マラソン大会

■目次

一般会計補正予算などを可決	2
12月定例会の議決結果	3
市政を問う・一般質問	4～10
各委員会報告	11～12
チャリティーショー・あとなぎ	12

12月定例会

一般会計補正予算(第6号)などを可決



平成25年第4回定例会は、12月5日から25日までの21日間を会期として開かれました。この定例会では、初日に24案件、最終日に1案件の議案等が提出され、条例の一部改正、補正予算、請願・陳情、意見書案などに継続審査中の13案件を加えた計41案件について審議を行い、それぞれ別記のとおり決定しました。

平成25年度竹田市一般会計補正予算(第6号)については、歳入歳出ともに2億1080万3千円の増額で、予算総額22億8308万9千円となった。

補正予算の歳出の主な内容は、**総務費**では、一般管理費4322万5千円等を減額計上し、地域の元氣臨時交付金基金積立金2億5979万9千円等を増額計上。**衛生費**では、簡易水道事業特別会計繰出金3752万5千円等を増額計上。**農林水産業費**では、県営土地改良事業負担金2265万9千円等を増額計上。**土木費**では、小規模住宅地区改良事業費7160万5千円を減額計上。**消防費**では、消防庁舎建設事業費735万円、消防救急無線デジタル化整備事業費883万2千円等を減額計上。**教育費**では、岡城保存整備事業費1122万5千円等を減額計上し、小学校施設整備費等工

主要公共施設調査

特別委員会を設置

竹田市議会は、平成26年1月23日開会の第1回臨時会で、17人の委員で構成する「主要公共施設調査特別委員会」を設置し、委員長に加藤正義議員、副委員長に岩屋千利議員を選出した。

今後、文化会館等整備事業、図書館建設事業、コミュニティセンター整備事業、直入荘整備事業の調査研究を集中して行い、市議会としての意見をまとめていく。

請負費760万5千円、文化財保護費455万1千円等をそれぞれ増額計上した。

一方、歳入では、市税3369万2千円、基金繰入金2億1153万9千円、市債1億7060万円等をそれぞれ減額計上し、国庫支出金では、国の経済対策に伴う地域の元氣臨時交付金6億1579万9千円等を増額計上した。

平成25年 第4回定例会

議案・請願・陳情・意見書案等の議決結果

議案番号・件名	議員名(議席番号順)															審議結果				
	佐藤美樹	鷲英彰	山村英治	阿部雅彦	渡辺克己	岩屋千利	徳永信二	佐田啓二	日小田秀之	坂梨宏之進	森哲秀	加藤正義	吉竹悟	本田忠志	和田幸生		後藤憲幸	足達寛康	中村憲史	
認定第2号 平成24年度竹田市一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第3号 平成24年度竹田市立こども診療所特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第4号 平成24年度竹田市畜産開発事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第5号 平成24年度竹市長湯温泉療養文化館特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第6号 平成24年度竹市民国健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第7号 平成24年度竹田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第8号 平成24年度竹田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第9号 平成24年度竹田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第10号 平成24年度竹田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第11号 平成24年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第12号 平成24年度竹市民国宿舍久住高原荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
認定第13号 平成24年度竹市民国宿舍直入荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致認定
報告第7号 専決処分事項「平成25年度竹田市一般会計補正予算(第5号)」について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致承認
議案第103号 平成25年度竹田市一般会計補正予算(第6号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第104号 平成25年度竹市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第105号 平成25年度竹市民国健康保険特別会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第106号 平成25年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第3号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第107号 平成25年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第108号 平成25年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第109号 平成25年度竹市民国宿舍直入荘事業特別会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第110号 平成25年度竹田市水道事業会計補正予算(第3号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第111号 竹田市職員の給与に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第112号 竹田市基金条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第113号 竹田市税条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第114号 竹市民国健康保険条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第115号 消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整理等に関する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第116号 消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整理等に関する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第117号 消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整理等に関する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第118号 竹田市水道事業の設置に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第119号 竹田市身体障害児及びひとり親家庭の医療費の助成に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第120号 竹田市障害程度区分認定審査会の委員の定数を定める条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第121号 竹田市陽目の里名水茶屋及び竹田市陽目の里キャンプパークの指定管理者の指定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第122号 神の里交流センター「絡環」及び三郎堂の指定管理者の指定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第123号 竹田市地域農業活動拠点施設湯の郷ふれあい館及び道の駅ながゆ温泉(駐車場)の指定管理者の指定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第124号 竹田市史跡御客屋敷の指定管理者の指定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第125号 字の区域の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
請願第6号 TPP(環太平洋パートナーシップ)決議の実現を求める請願	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致採択
陳情第1号 竹田市久住町青柳地区のニンニク加工業者の悪臭に関しての陳情	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	少数不採択
陳情第2号 都野山村広場への道路に関する陳情	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	継続審査
意見書案第9号 TPP決議の実現を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決
議案第126号 平成25年度竹田市一般会計補正予算(第7号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全会一致可決

※議長は表決に参加しないため、表決結果は空欄

表の見方・・・○：賛成、●：反対、－：欠席もしくは棄権

市政を問う

平成25年12月11日・12日、9人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。
なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。

吉竹 悟



駅前平線、登城線、駅前の

振興計画の見直しについて

問 計画の進捗状況はどうか。実効性はあるのか。今後の見直しは。

建設課長 平成元年12月に最終決定された駅前平線、駅前広場は現在事業化されていない。登城線は、都市計画の廃止手続きを進めている。今後は、地域の状況や優先度を精査し順次整備していく。都市計画マスタープランで掲げた将来像の実現に必要な道路から重点的に整備する。高規

格道路の整備に伴い、竹田インターや久住高原インター(仮称)が実現すれば、周辺の状況も一変する可能性がある。状況を見極め都市計画区域や駅前平線の方針を検討する。

経済活性化推進協議会で立ち上げたサポートセンターの今後のあり方は

問 暮らしのサポートセンター「りんどう」をどう評価しているのか。今後「りんどう」「ゆのはな」とのよう

うに関わるのか。また、社会福祉協議会との関わりはどうかについて。
保険課長 「りんどう」に生活支援サービス、通所支援サービス、訪問型サービス、集いの場の開設の事業を委託している。高齢者が住み慣れた地域で、自立した生活を継続し、介護予防もできるという実証ができ



▲暮らしのサポートセンターりんどう、「寄り合いの場」の様子

たことに大きな評価をしている。

健康増進課長

要支援1・2の生活

機能評価としての要因分析、必要な支援とサービス量、到達目標の設定の検討を行っている。元気な高齢者が「りんどう」のサポーターとして関わり、久住地域を支えている。「りんどう」「ゆのはな」との連携として、高齢者の体力づくり、認知症予防等に取り組んでいく。

福祉事務所長

「りんどう」「ゆのはな」は、介護予防の一部を担っている重要な事業であり、各地域に必要な組織だと考える。

市長

市の新しい社会の仕組みを構

築しなければならぬ。暮らしのサポートセンターの持っている経験値を社会福祉協議会の体制の改革と併せて、平成26年度に独自の取組を推進する。「りんどう」「ゆのはな」の後10年という経過の中で、強い体制・仕組み・システムを構築するために、財政支援をしていかねばならないと考えている。

この他に、災害復旧の契約のあり方について質問した。

佐藤 美樹



当市の医療体制について

問 現在の医療体制の課題は。その課題を医療機関とどう情報共有しているのか。

健康増進課長 豊肥保健所はじめ市医師会、歯科医師会、社会福祉協



▲新庁舎に整備された高機能消防指令装置

議会、自治会長会等からなる「竹田市地域医療推進協議会」を立ち上げた。医師、看護師、薬剤師不足や救急医療体制の問題、産科や耳鼻咽喉科医の不在、医療機関の減少、無医地区等の課題が挙げられ、解決に向けた協議を行っている。豊後大野市民病院と連携をとり、豊肥地区広域医療圏として役割分担を図っている。

問 新消防署の機能について。

消防長 高機能消防指令装置を整備し、現場到着までの時間短縮を図り、デジタル無線導入により混信を抑える。また耐震性の強化に加え、訓練棟の充実、市民講習のための多

目的ホール・太陽光パネルを設置。平成26年度に車庫棟が完成。今年1月に新事務棟で業務開始。

問 病児保育所導入の進捗状況について。

福祉事務所長 医療機関から経済的負担等の点で難色を示されている。医療機関に負担をかけない方策や保育所・保育園、NPO法人の活用を検討、協議を進めている。

観光戦略について

問 先般行われた観光戦略会議の内容は。

商工観光課長 平成27年度のJRDアースティネーションキャンペーンを見据え、向こう3か年を意識した官民共同の協議。観光プロモーションや滞在型観光の促進、観光施設の充実と振興等を戦略の主軸とする。

問 エコミュージアムやジオパーク構想、クリシタン研究等を市民にどう浸透させ、まちづくりに反映するのか。

副市長 公民館講座や学校教育、市民活動との連携により浸透を図

る。現在策定中の「まちづくり基本計画」でまちづくりに活かせるように位置づける。

その他、岡城と城下町の整備、国民温泉保養地としての取組について質問した。

阿部 雅彦



地域雇用創造推進事業の取組について

問 木質バイオマス熱利用における荻の里温泉での薪ボイラーの効果と今後の展開は。

企画情報課長 重油使用量でマイナス63%、450万円の経費削減となっており、地域から新規に2名を雇用することができた。今後は、久住高原荘や花水月への導入も協議していきたい。

問 竹資源活用の中で、発酵竹粉

による農畜産業への効果と今後の展開は。

林業振興室長 現在、高い評価を受けている「岡城竹炭米」については、米農家の体制づくりに努めたい。竹粉も畑作の土壌改良剤としての効果があり、供給できる施設が整えば活用できると考えている。

畜産振興室長 飼料としての発酵竹粉の製造技術が確立し、安価なら実用可能である。担当課としては県の支援も受け、協力したい。

問 3年目の最終年を迎えた本事業の来年度以降の取組は。
企画情報課長 重要な政策として、市民の関心の高いものを精査し、取り組みたい。

竹田市男女共同参画の取組について

問 市民アンケート調査の結果を受け、今後どのような取組を展開していくのか。

人権・向和対策課長 宮城地区TOP懇談会で初めて、男女共同参画推進を訴える意見が出された。今後は、生涯学習課と協議し、公民館活動や諸

団体との学習会を組み立てたい。アンケートについては、データの活用や提供に取り組みたい。

移住・定住促進のための

空き家バンクの取組について

問 今以上に移住者や定住者を増やしていくために、専門の組織を立ち上げる必要があるのではないか。

企画情報課長 これまでの取組を分析して組織の見直しを行い、生きた組織として取り組んでいけるように、柔軟に対応していきたい。



▲伐採した竹を粉碎し、「竹粉」を製造する様子

森 哲秀



農業問題について

問 米作農家の現状について、戸別所得補償・中山間地域直接支払等に加している戸数と、米作が占める所得は。

農政課長 戸別所得補償の加入者は2735人、WCS飼料作物水田活用所得補償交付金申請者は、708人、推進野菜等の産地資金606人となっている。中山間地域直接支払制度加入協定数は185件、農家数は3792戸となっている。本市の農業生産額を約180億円とした場合、米の販売額に補助金等を加えた米の所得は約31億円と推計される。

問 減反政策や補助金等の見直しされるその内容は。

農政課長 戸別所得補償は、平成26年産米より10a当たりの単価が1万

5千円から7千5百円に削減、平成30年産米より廃止となる。新たに日本型直接支払交付金が創設され、農地維持と資源向上払の2本立てになる。飼料用米・米粉用米は、数量払に変更され、10a当たり8万円から10万5千円が上限となる。

問 今後米作をどのように推進し、農家所得を維持していくのか。

農政課長 経営所得安定対策として、水田の畑作化に取り組んで来たが、農業従事者の高齢化等により畑作化はこれ以上困難である。農業者も米を作りたいとの希望が多いことから、主食米から非主食米への誘導を図り、均衡の取れた米生産で農業所得を維持する。

問 今後の鳥獣害対策については。

農政課長 平成24年度の被害額は3437万円、うち81%が猪によるもので最も多い。平成26年度の電気柵補助は、県費240台・市費200台用意している。平成23年度より年間を通して捕獲許可をしている。市職員で鳥獣害アドバイザーを養成し、電気柵等の正しい設置の指導を行う。猪・鹿については個体数の減少しかなないと考える。



▲猪に曲げられた防護柵

問 カボスの振興については。

農政課長 大分県カボス振興協議会を主体に生産振興と販路開拓に取り組む。出荷最盛期の9月の出荷集中期を分散化し、中期長期の貯蔵を行い、価格の安定化に努めるとともに、販売対策として全国で数多くのイベント等に参加しPRなど販売戦略を図る。

この他に、椎茸の振興・畜産の振興について質問した。

鷲司 英彰



財務計画及び

事業計画をより綿密に

問 補正予算での事業が多いのはなぜ。

財政課長 補正予算は、緊急性や必要性のある場合に組み、議会に諮る。平成25年度は市長選挙で当初予算を骨格予算でしか組んでいないため、細かい部分は6月以降の補正予算を組むことが多くなった。

問 財務諸表を活用した減価償却の概念が必要なのでは。

財政課長 現行の会計制度を維持しながら、償却費等の概念を導入していきたい。

問 市財政の今後の見通しと文化会館再建に向けた財政の裏付けは。

財政課長 市財政の見通しは、平成29年度までは黒字決算の見通し。平成24年度末で基金は38億円

以上あり、平成29年度には54億円に達する見込み。文化会館の建設に向けては、災害に伴う国の補助金、復興に向けた市民の寄付金、災害保険金、国からの借り入れで実施予定。

登山基地の設置について

問 登山者の数の推移と山の環境の変化は。

久住支所長 くじゅう山系の登山者は18万人、うち竹田市側からの登山者は約1万5千人。環境意識の高まりから、ゴミの量や盗掘の数は減少。



▲三重総合高校久住校の生徒たちによる「入山公廟」清掃の様子

問 竹田市の施策は。

久住支所長 三重総合高校久住校と連携した入山公廟の清掃活動をはじめ、登山道の整備や草刈は今後も続けていく。また久住の山々を愛し描き続けた白壁画伯の絵画の展示会や、「久住山の歌」復刻版の作成も実施。登山基地の設置については、地元の期待も大きい。行政と民間が連携し環境省に設置要請をしていく。

中学校の部活と体育授業について

問 中学校の生徒数の推移から、合同授業は考えられないか。

教育長 現在市内の中学校の生徒数は482名、向こう10年間は400名以上が見込まれている。現在スクールバスを利用し、小学校では複数の小学校が一緒に活動している。今後は中学校の体育授業も検討していきたい。

その他、医師をはじめ看護師等医療に関わる人材の確保と、介護保険の今後の見通しについて質問した。

佐田 啓一



南山荘の運営方針について

問 これまでの経過について。

福祉事務所長 平成23年度に設置された「養護老人ホーム南山荘のあり方懇話会」で民営化の方針が出された。昨民間事業者に募集をかけたが応募者はいなかった。

問 今後の方針は。

市長 再度県に対し補助金協議をしている。これまでの協議では県補助金は約1億2千万円、市はそれに運営費補助として、3年間分3千万円を加えた1億5千万円を想定してきた経過がある。その方針に従い、平成28年4月民営化に向け進めたい。

君ヶ園二号線の改良計画について

問 死亡事故が発生した本線の現時点の改良計画はどのようなものか。



▲養護老人ホーム「南山荘」

建設課長 平成22年に関係自治体から要望書が出され平成23年度に

予備設計を行い、改良に向け検討を行っていたが、平成24年の災害により中断している。

問 改良をどう進めるのか。

建設課長 平成25年度に入り再開し測量及び設計を行い、平成26年度に用地取得、平成27年度完成を目指している。国道との交差のため国交省とも鋭意協議を進めている。

岡城の整備促進と活用について

問 入場者数の推移は。

文化財課長 平成11年度の14万7千人を最高に、平成24年度の7万6千人と半減している。

問 整備・活用計画は。

文化財課長 これまで、家老屋敷の遺構復元や石垣及び主要幹線道路の整備を行ってきた。不用木竹の伐採は、平成23年度から毎年500万円を投入し、石垣が見えるようにしている。



今年度中に、岡城跡の公開活用に向けた総合的な整備を図るための実施計画を策定する。懸案であった、移動制約者に優しい「エコカーによる岡城観光ルート」の実証実験も行う。

その他、草刈や清掃作業に十分人材を配置し、常に観光客が感動するような環境を保つよう要請し質問を終えた。

後藤 憲幸



高規格道路について

問 中九州横断道路の一部として滝室坂トンネルができる。荻町はこれまで期成会を作り、道路の要望をしてきたが、このトンネル設置で荻町に道路が来なくなることはないか。

建設課長 竹田―荻間は既に調査区間に指定されている。この区間指定をベースに、ルートの選定、整備の手法等の調査が進められている。荻から阿蘇市までの調査区間指定を要望している。

問 今後の荻町ルートの要望活動については。

市長 九州地方整備局へ地元の要望や考えを伝えていく。また、久住インターチェンジ設置の要望もある。荻・久住の要望に歩調を合わせて要請を続ける。

風疹について

問 都心部を中心に風疹が大流行している。20代から40代の方で、子ども頃、ワクチン接種を受けていない人が多くいる。接種に対して助成としては。

健康増進課長 竹田市も抗体検査に積極的に取り組み、大分大学医学部附属病院や竹田医師会と共に検査結果を分析する中で、先天性風疹症候群の罹患防止に向けて、予防接種費用の助成を含め、最善の方法を検討したいと考えている。

保育所について

問 荻と柏原の保育所合併で荻保育所が二つになった。最近子どもが増え、定員90名に対し、97名の子どもが入所している。増築の必要はないか。

福祉事務所長 5年先まで子ども的人数が減少しないと予測されている。平成26年度事業で部屋を拡張する計画を立てている。

問 荻町と久住町には幼稚園がない。今後の方針はどのように考えて



▲萩保育所

いるか。

教育総務課長 子育て支援制度のもとで、平成27年度から認定こども園制度がスタートする。福祉事務所と協議を重ね、幼稚園と保育所の両機能を兼ね備えた認定こども園へ移行することを基軸に、調査研究を深めていく。

問 幼稚園と保育所の料金格差がある。格差を少なくし保護者の負担軽減としては。

福祉事務所長 平成24年8月に子ども子育て三法が制定され、平成27年度から子育て支援制度が始まる。幼稚園と保育所を同じ基準で見ることとされているので、竹田市も格差解消策を十分検討していきたいと考えている。

山村 英治



防災対策について

問 平成24年竹田豪雨水害で、九州電力竹田調整池堰は機能不全となった。市として、九州電力に対して抜本的対策は求めないのか。

総務課長 九州電力竹田調整池堰は利水堰であり、治水機能は持つていない。また、土木学会九州北部豪雨調査団の報告では、阿蘇新橋付近の堰の影響による高上げは最大20cmとしてある。国土交通省の見解は、堰が災害に大きく影響したとは考えていない。九州電力は、ゲート操作や堰自体の影響が災害原因ではないので、今後も発電を続ける方向である。市としては堰右岸に放水施設を設けるような要請もした。



▲竹田調整池堰(魚住ダム) 平成24年7月12日 5時45分～6時頃の様子(検証会議報告書より)

農業振興について

問 国営大野川農業水利事業第3回計画変更について、その概要を聞こう。

農林整備課長 第3回計画変更説明会を平成26年度春から始めて、秋に概要公告、その後、国、県、市職員と関係土地改良区の協力を得て、平成27年度末までに確定するように進める。

問 受益地の菅生地区では、土地改良資金連帯保証問題の先決を求め意見がある。竹田市大野川上流地域農業開発事業資金融資補償条例に基づいた解決を図り、同意取得のできる体制はとれないか。

農林整備課長 竹田市の見解は変わらないが、菅生地区に対して営農支援を強く進めていく。

問 国営事業受益地の補助事業について聞こう。

農林整備課長 受益地を有する2市1村で、平成21年度に実施した戦略的産地振興支援事業に代わるものとして、施設園芸推進のための国費高上げ、担い手などによる農業用機械導入の要件緩和、中間管理機構による農地集積、企業参入を踏まえた農地貸借制度の構築、維持管理費用の軽減のため国直轄事業の採択、自然エネルギー事業の取組を国に要請する。

その他、畜産の振興について、農地災害復旧について、農業基金創設について質問した。

渡辺 克己



救急医療について

問 ドクターヘリの運用開始で、重症傷病者の初期治療が可能となった。出勤状況はどうか。救急車の出場が平成22～24年度の間は管内、管外、豊後大野市についてはどうか。

消防長 ドクターヘリ運用1年を経過して、全体419件の出勤で、そのうち市内の要請件数は125件である。

問 ドクターヘリの出勤要請はどの時点で行うのか。

消防長 119番受理時に容態や事故概要等を聞き取り、派遣要請する。

問 出勤件数が県内でも特に多いが原因は何と考えるか。

消防長 大分大学医学部附属病院での研修会や、ドクターヘリの検証会の参加により信頼関係が構築され、

「疑いも含む全ての重症事例」に医師の派遣要請ができることから出勤件数が多いと考える。

問 ドクターヘリに多くの市民が信頼を寄せている。地域に新規の離発着場設置の要望があるが、そのルールづくりが難しいか。

消防長 離発着場は市内23か所を登録してあるが他市と比べ少ない。まず必要な設置箇所を調査し、面積・経費・維持管理等の設置基準マニュアルを定め、そのうえで補助基準も視野に入れながら総合的に検討していきたい。



問 豊後大野市民病院への救急車搬送が20%以下である。近距離にあり救急医療効果が高い。今後搬送件数を増やすことはできないか。

市長 市民病院も豊肥医療圏の中核病院としての役割を十分理解しており、搬送件数も増加傾向にある。

「竹田市ドクターヘリ」場外離着陸場

No.	場外離着陸場の名称	所在地
竹田-1	竹田 飛田川グランド	大字飛田川2239-2
竹田-2	荻 総合福祉健康エリア	荻町恵良原1772-7
竹田-3	久住 栢木グランド	久住町大字栢木都野
竹田-4	竹田 小川ヘリポート	大字九重野字小川
竹田-5	直入 野球場総合運動公園	直入町大字長湯8208-6
竹田-6	そうぞうの丘	大字竹田584-2
竹田-7	あ祖母学舎グランド	大字神原13
竹田-8	中島公園河川プール駐車場	大字入田16
竹田-9	豊後豊肥家畜センター	大字中1620
竹田-10	竹田市文化財センター(双城中学跡地)	大字下坂田830
竹田-11	ひょうたん島駐車場	大字刈小野1299
竹田-12	菅生農村環境改善センター横	大字菅生1111-1
竹田-13	七つ森古墳 駐車場	大字戸上321-2
竹田-14	荻総合福祉健康エリア グランド	荻町恵良原747-3
竹田-15	荻 カントリー	荻町1128
竹田-16	久住総合グランド	久住町大字久住7719-1
竹田-17	久住スポーツ研修センター	久住町大字栢木
竹田-18	久住高原荘 駐車場	久住町大字久住4031
竹田-19	スパ直入	直入町大字上田北510-15
竹田-20	都野中学校 グランド	久住町大字栢木
竹田-21	直入支所前広場	直入町大字長湯8208-6
竹田-22	仲村グランド(第二町民グランド)	直入町大字下田北192
竹田-23	竹田市文化会館 駐車場	大字玉来1-1

文化会館の復興について

問 文化会館復興に対して、市財政は「健全である」と聞かされたか。

財政課長 健全化判断比率等や監査意見書から健全であると判断している。

問 財政力指数は0.24で県下自治体の中で姫島村の次に低く、財政力は脆弱な状況にある。また平

成20年以降低下の傾向にある。

市長 自主財源比率が問題であるが、国から地方交付税の増として配分されている。

基金状況や市債の状況を県下の市町村との対比で質問をした。文化会館新築には、交付税の合併算定替への対応策も考えるべきではないかと提案し質問を終えた。

議会改革調査特別委員会報告

委員長 佐田 啓一

昨年の議員改選により、6月議会において新たに議会改革調査特別委員会を設置した。第1回から第2回委員会において、既に改革ができた事項、更に調査・研究を進める事項を整理した。検討項目は、①議員定数②政務活動費活用の充実③議会報告会・研修報告会の開催④議会中継⑤ホームページの充実⑥議長の車の変更⑦議員報酬等⑧議会改革に関する市民との意見交換会⑨昨年3月議会で制定した議会基本条例の運用、の9項目とした。8回の委員会、決定した内容は以下の通り。

議員定数については、平成29年が改選期であることから平成28年3月に結論を出す。政務活動費の活用については、使途基準を明確にした。研修については事前の計画書と事後の報告書の提出を義務付けた。議会報告会は「市民との意見交換会」を開催した。議会中継の放送内容については、放送回数と放映のあり方を引き続き検討。議長車については運行形態

を調査し、民間委託等様々な形態を検討する。議員報酬（議長・40万2千円、副議長・36万2千円、一般議員34万円）については、合併時の17年議員定数28から22議席、18議席と8年間で10の定数減で、総体では36%の経費縮減に取り組んできた。市民のために働くことが議員の使命であり、過度の減額は議員活動に影響する。議員年金が廃止、その上での減額は



▲市民との意見交換会(竹田南部地域・宮砥分館)

新たな人材の出馬が期待できない。他市と比較して高くない。政務活動費年額18万円は、議員の資質向上のための調査・視察・研修には欠かせない必要な経費である。行政視察研修費12万円は、常任委員会の視察研修費であり、それぞれの常任委員会

の所管事項についての研修は、議員の質を高めるうえで必要不可欠であり、むしろ議員の使命ともいえる仕事であり、保障されるべきものであるとの考え方からいずれも現行どおりとした。その他の事項については、今後引き続き検討していくこととした。

議会運営委員会行政視察研修報告

委員長 日小田 秀之

竹田市議会運営委員会(5会派5人で構成、議長・副議長はオブザーバーで参加)は、去る10月30日～11月1日にかけて、改選後初の行政視察研修を行い、先進地の議会運営を中心に学ぶ機会を得た。訪問地は、山口県の山陽小野田市と周南市に打診したところ、両市ともに快く応諾いただき、当初目的どおり充実した研修を行うことができた。

本市も今年で合併後10年目の節目の年となり、議会も昨年、議会の最高規範と言われる「議会基本条例」を制定し4月から施行を始めたが、実を伴う運用はまだまだこれからである。議員数も合併直後の28人

から18人に減った今、まずはお互い議員としての資質を磨くことは勿論であるが、議会人としての使命・役割を再確認し、真の議会活性化に努めなければと参加者全員、意思を鼓舞したところである。以下、視察先の山陽小野田市と周南市の両市議会の運営面について、特徴的な部分を報告する。

【山陽小野田市】

人口約6万5千人 議員数22人
日本発の民間セメント会社発祥の地
○本会議での一般質問は委員会審査後に行っている。「本市は委員会審査前に行く」



▲山口県周南市行政視察

- 予算決算常任委員会を設置している。「本市では特別委員会を設置」
- 議長、副議長の任期は地方自治法の規定どおり4年通期としている。
- 議会報告会を定例会終了後、毎回行っている。
- 市民の申し出を受ける形で、市民懇談会をこれまで2回開催している。
- 決算審査に当たって、議会としての独自の事業評価を行っている（行政評価）。

【周南市】

- 人口約15万人 議員数30人
- 旧徳山市等を含む西日本有数の工業集積地
- 会派は、2人以上の議員で構成でき、3人以上の会派を交渉会派としている。
- 会派質問を導入している（途中交代可能）。
- 行政評価の導入（決算審査時議会が評価）。
- 予算決算常任委員会を設置している。

チャリティーショーを終えて

舞台監督 阿部 雅彦

今回のチャリティーショーの舞台はくじゅうサンホール。プログラムの中で唯一の演劇は、竹田市議会の「新説桃太郎」となった。脚本は佐田啓二議員にお願いし、ユニークで愉快的な舞台を目指した。昨年と同じく、議員全員で（3名の議員は、姉妹都市交流のためにドイツへ）総力を上げて挑んだ。練習は週2回の1か月間。皆さん忙しく、なかなか全員揃わない。しかし、そこは数々の苦難を乗り越えてきた議員さん達。何とかセリフを覚え、衣装は大いに凝りまくっての本番となった。

さて本番のステージでは、練習の成果を見事に発揮。多くの市民の皆さんの笑いを頂戴することができた。ある市民の方からは、「近年にない良い出来だった！」との、涙が出るくらい大変嬉しいお褒めの言葉を頂く。「ああ、今回もチャリティーショーに出演して良かった！」と胸を撫で下ろした一日だった。



◀ 熱演のおじさんとおばあさん

▲ 桃太郎、鬼に敗れる!?

あとがき

いよいよ、公共施設整備（文化会館・図書館・コミュニティセンター等）が始まる。2〜3年のうち、山あいの穏やかな町に建設ラッシュが訪れる。一方、国内では千数百ある地方の自治体が過疎や少子高齢化、中心部の町並み再生に必死に取り組んでいる。円安や株価上昇による国内産業の回復の影響が地方まで及ぶことはあまりない。それだけでなく、農業農村の危機を招くTPP交渉の行方や、差し迫った消費税率引き上げが追い打ちをかけてきそうだ。国外では、尖閣諸島をめぐる中国の動き、防衛のための集団的自衛権等、日本を取り巻く情勢も緊迫している。今世紀はすべての国が、グローバル化の大渦に巻き込まれ、幾つかの傘の下でそれぞれ治まるのかもしれない。

山紫水明の竹田市、どんな時代でも子どもたちの歓声が響く町として残していきたい。乾坤一擲^{けんこんいつてき}、議会人も尽力したいと思う。

編集委員 山村 英治